

北海道浮魚ニュース

平成 18(2006)年度 18 号 (通巻 No.231)

2006 年 9 月 25 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

平成 18 年度オホーツク海サンマ漁況見通し

北海道立釧路水産試験場・網走水産試験場・稚内水産試験場および独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所・北海道区水産研究所が協議を行い、9月22日に「2006年(H18年)オホーツク海沿岸におけるサンマ漁況の見通し」を発表しましたのでお知らせします。

【漁況見通し】

来遊資源量 : 来遊は少ない

魚体組成 : 中・小型魚が主体

来遊時期 : 北海道沿岸域への来遊は 10 月後半

魚体説明 : 特大魚 (体長 32cm 以上), 大型魚 (29-31cm 台), 中型魚 (24-28cm 台)
小型魚 (20-23cm 台), ジャミ (20cm 未満)

1. オホーツク海で漁獲されるサンマの回遊 (予備知識)

例年オホーツク海で漁獲対象となる魚群は中型・小型魚が主体で、この群は南部千島太平洋側へ接岸したものの一部が、7月から8月にオホーツク海へ移動・回遊するものと考えられます。したがって、7月から8月に太平洋海域に分布する中型・小型魚の分布量が多く、なおかつ南部千島海域の表面水温がサンマの移動・回遊に適していれば、オホーツク海への来遊資源量は多くなると考えられます。また、オホーツク海に回遊したサンマは、8月から9月頃はオホーツク海の中南部海域に広く分布しますが、9月以降に海水温の低下にともない、比較的水温が高い(10℃以上)北海道沿岸域へと移動し、そこで漁場が形成されます。

2. 来遊資源量

・6月から8月の太平洋における中型・小型魚の分布量

東北区水産研究所が今年の漁期前(6月から7月)に実施したトロール調査の結果、東経162度以西の太平洋海域における中型・小型魚の推定分布尾数は73.2億尾と推定され、これは昨年(11.2億尾)より多いものの、一昨年(153.1億尾)を下回りました。また、今年7月から8月の太平洋海域(主に東経150度以西)における中型・小型魚の漁獲尾数は0.4億尾と推定され、昨年(0.2億尾)より増加しましたが、2003年以降低い水準で推移しています

・オホーツク海へ回遊する海況条件

7月から8月の南千島海域における表面水温が高い年は、サンマがオホーツク海へ回遊する条件が良好であると考えられます。今年の7月中旬から8月下旬の南千島海域は、サンマの回遊に適すると考えられる水温10℃以上の水に広く覆われていたので、今年の太平洋からオホーツク海へ回遊する海況条件は良好であったと考えられます。

・オホーツク海における目視調査結果

オホーツク海域で8月24日から27日に釧路水産

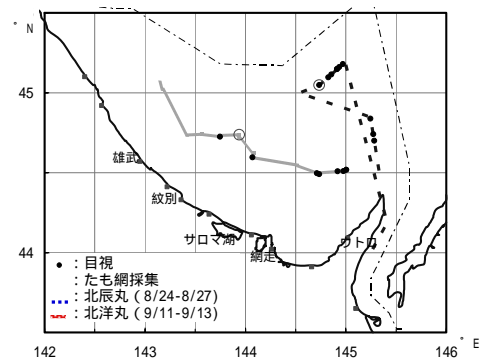


図1 調査船によるサンマ魚群探索・目視調査結果

試験場試験調査船北辰丸により、9月11日から13日に稚内水産試験場試験調査船北洋丸により夜間のサンマ目視調査を実施しました。北辰丸による調査での表面水温は19.3~20.0、北洋丸の調査でも表面水温は15.8~17.6で、この時期のサンマの分布に適するとされる15よりもやや高い水温でした。夜間、停船中の目視調査では、昨年と同様まとまった群れはほとんど見られず、ジャミサンマが散見される程度でした(図1)。

3. 魚体組成

流し網で採集可能なサンマの群れは発見できず、タモ網による採集では、8月の北辰丸の調査ではジャミサンマのみ、9月の北洋丸の調査でも肉体長18~25cmの小型魚が少数採集されたのみでした(図2)。

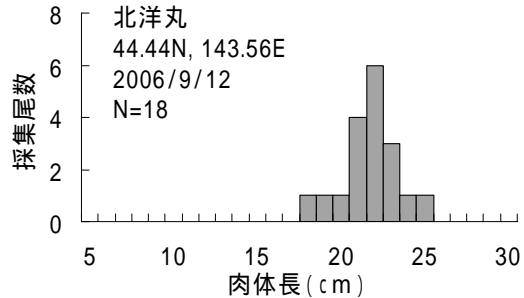


図2 調査船が流し網で採集したサンマの体長組成

4. 北海道沿岸域への来遊時期

紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の間には、水温が高い年ほど初漁日が遅くなる傾向が見られます(図3)。

今年9月中旬までの週間平均表面水温の年最高値は、8月第4週の20.4と近年の中では最も高く、最高値を示した時期も例年よりも遅くなりました。

前述の9月中旬に実施した北洋丸による調査時には、沖合域でもサンマの分布適水温よりも若干高い水温帯が広がっていて、サンマの群れはほとんど発見できず、ジャミサンマが散見された程度でした(図1)。

以上のように、サンマの群れは9月中旬で沖合域にもまだ見られず、今年の年最高表面水温が高かったことから、北海道沿岸域への来遊は少なく、来遊しても10月後半になると考えられます。

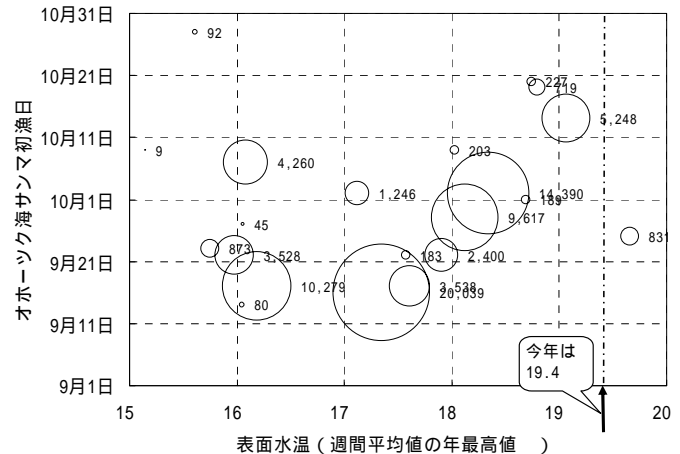


図3 紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の関係
表面水温は北緯44度~45度、東経143度~144度の海域
図中の数字は漁獲量(トン)を示す
「」が大きい程漁獲量が多い
漁獲量が500トン以上の年のみ図示

従って、今年太平洋海域に分布するサンマの中型・小型魚の資源量が少なく、その漁獲尾数も2003年以降低位で推移していること、オホーツク海における目視調査でも漁獲対象にならないジャミサンマと、ごく少数の小型魚しか発見できなかったことから、北海道のオホーツク海沿岸へ来遊するサンマは少なく、その来遊時期は遅いと考えられます。

5. その他

オホーツク海で操業する棒受網船の多くは太平洋から回航してくるため、来遊資源量が十分ならば、漁獲量はこの回航隻数と操業期間(延べ操業隻数)に左右されます。また、9月中旬・下旬の道東太平洋の漁況が良好である年はそこで操業を続けるため、オホーツク海への回航隻数は少なくなります。そのため、この時期の道東太平洋の漁況がオホーツク海の漁獲量を決定する主要因の一つになっています。今年9月中旬の道東太平洋海域の漁況は良好で、このまま好漁が続けばオホーツク海へ回航する漁船が少なくなる可能性があります。

(文責：釧路水産試験場資源管理部、TEL:0154-23-6222、FAX:0154-23-6225)